都市室町
伊藤

八幡代表者上京

銃を擬して強制

溶鑛爐の火を焚かせる爲に

製鐵所代表委員

農相に肉迫

貴院に出頭して

八幡製鐵所紛擾問題に關し鈴木友愛會長及び興風協會勞友會友愛會支部を工藤、木村、淺原、須藤、藤田、森の七氏は昨十六日午後一時卅分頃折柄開會中の貴族院に出頭し大臣室にて山本首相に會見し豫て要求する五箇條に對する返答を要求する所ありたり有に付き鈴木氏は語る去る十四日午後二時半頃自分等は農相官邸に大臣を訪問したら當時大臣は差支があつて岸川鑛山局長及び四工務局長に面會して五箇條要求に對する返答を促して置いたので本日は其の返答を聞かんが爲め出頭したのである

昨十一日午後一時廿分東京驛著の列車にて友愛會の藤田俊次郎勞友會の淺原鐵三郎工藤勇雄並に鐵夫協會の本多眞雄の四君は製鐵所騷擾問題を提げて八幡市より

上京し

直に芝の友愛會を訪れて鈴木會長に會見し上京後の運動方法に就き種々劃策する所があつた。十二日午前記者が友愛會の本部を訪れると同氏は快く會見し詳に罷工事件の內容を物語る、勞頭先づ上京の目的を問へば勞友會の淺原君は昂然として語る曰く「眞情を

開陳し

て天下に訴へる

といふのが第一になつてゐます」と叫び次で「農商務大臣に會ふとか議會開期中に特別な運動をするとかいふことに就ても種々な噂が傳はつてゐる樣ですが今のところ未だ明瞭りとした考へはありません」と語る。然し其緊張した一言一語の底にも何等かを行はなければ止らぬといふ決意が仄見えてゐた。然らば勞友會は今後如何なる

態度を

執らんとするかと問へば四氏は口を揃へて飽く迄當初の目的を貫徹したいといふ決意を物語つた、而して四氏の談に八幡市における職工の氣勢は唯官憲の壓迫によつて一時鎭靜に歸し

精廉價を旨とし
間多少に不拘

…運命だ。」と、皮肉の顏を打眺めると、嬢さんは悄然…三十六計の奧の手…は、…は、…
…せう。」
…は僕の方から逃げない。」
…のなら、立派に逃げ…
…。その時は、わた…
…念で、眞方を…

…は公爵桂野良行…法案を…
…に提出して、用材及び…の不足に對して、百年の計を…
…るが、今の木材家…を吐露し…
…いつては、林業…では木材の消費はとても追つくまい、家屋の基

…會に諮問しあらずと聞く右調査會は何をなしつゝありや 原首相

…は戰後經濟界の安定を待つて稅制の根本整理をなすべしと言はれた…る果して何れの時を以て安定の時となすや、余の所見を以て安定のあらば今日の如き根本整理を斷行すべき好機會ならずやと考ふるものな

…の…

…政調査…

…を去來しつゝある…全部を…禁せられ…在つては新に東…

本社の

長代理として…
…しつゝある由で…
…父々口を開いて…

…かりにて、現に勞…
…には經ず…服巡…
…十名…武し一度び…
…職工は否應無く…
…るといふ。

職工等の

…は毫も弛緩する…
…運動を繼續しつゝ…
…今迄の不…中特に…
…は溶鑛爐の火を…
…中の職工を…